

草の根国際交流のすすめ

茨城県笠間市秘書課主幹 細谷 有策

受け入れの経緯

笠間市（以下、本市）は、茨城県のほぼ中央に位置する、人口約7万8,000人の自治体です。本市は、栗、菊、米などの産地であり、地場産業としては、笠間焼、稲田の御影石、日本最古の酒造を擁する酒造業などの特色を有しております。

また、文化面においては、日本三大稲荷と称される笠間稲荷神社、95か国で修行されている合気道、日動美術館など世界に誇れるものが数多くあります。

本市はこれまでも積極的に国際化への対応に取り組んでまいりました。

一例としまして、職員が勤務時間終了後に自主研修として開催している「トワイライトセミナー」での英会話教室や小学5・6年生を対象に公民館において実施している「寺子屋事業」における英語教育の導入などがあります。

2013年9月7日に開催が決定された、東京オリンピック・パラリンピックは「国際交流」の夢を大きく広げてくれました。本市として何ができるか、何を世界に向かい発信することができるかについて、真剣に検討をした結果、国際化を図るためには人的な交流が最も重要であるとの認識から、この度、クレアの自治体職員協力交流事業（LGOTP）を活用し、海外の自治体から研修員を受け入れることとなりました。

受け入れ実務

自治体職員協力交流事業を活用した外国人研修員の募集方法については、大別して次の2通りとなります。

(1) 海外地方自治体との交流の契機となるクレア斡旋方式

(2) 既に友好的な関係にある海外地方自治体との交流を深化させる独自選考方式

本市は、地理的にも文化的にも近いアジア地域との交流を目指し、(1)により、クレアを通じ研修員の公募を行うことに決定しました。

その結果、ミャンマー連邦共和国（以下、ミャンマー）およびラオス人民民主共和国（以下、ラオス）から、研修の希望があり2人の研修員を受け入れることになりました。

2014年3月に研修員の受け入れを決定した後は、研修員が来日するための在留資格認定証明書の交付申請や同証明書送付、アパートの借り上げ契約などを行いました。研修員は、在留資格認定証明書を受け取り後、各国の在外公館でビザを申請し、来日の準備をしました。

なお、本事業に係る経費については、市町村への特別交付税措置があるため、財政的な負担もなく事業の実施が可能となっていることも大きな魅力であります。

こんにちはテインさん、ビンボさん

本市が受け入れている研修員は、ミャンマーからのHTEIN LIN AUNG氏（写真左。以下、テインさん）、ラオスからのBIMBO SISAVATH氏（写真右。以下、ビンボさん）の2人です。

テインさんは、ミャンマーの内務省総務局で、ビンボさんはラオスのルアンパバーン州観光部でそれぞれ勤務をされておりました。

研修員は、2014年5月18日に来日し、総務省およびクレアが実施するオリエンテーションを経て、滋賀県大津市の全国市町村国際文化研修所（以下、JIAM）にて約1か月間日本語研修を受講し、2014年6月20日付けで本市に着任いたしました。

JIAMでの1か月の間には、日本語だけでなく

日本の基本的な慣習についても研修があります。しかしながら受け入れ機関の担当者としては、円滑な研修の実施に当たり、研修員にとって本格的な日本文化の体験は着任日から始まるとの認識を持ち、研修員をケアする心構えが必要となります。



2014年6月20日 着任式にて 山口伸樹笠間市長と

笠間市での研修について

テインさんはミャンマー内務省の職員です。帰国後は3年ほどの間隔で、地方行政の要職として、ミャンマー国内を異動するという勤務スタイルです。このため、地域振興の観点から、日本の観光政策を学びたいという意向がありました。ビンボさんは、州全体が世界遺産でもあるルアンパバーン州に勤務していることから、日本における観光政策、特に、地域における観光スポットの魅力を持続可能なものとする施策を学びたいという意向がありました。これらを踏まえ、本市では研修員を産業経済部商工観光課で受け入れました。

研修員は、6月に着任後、本市が実施している観光行事のほぼすべてに参加をし、観光行政のノ



北大路魯山人の旧宅春風萬里荘にて

ウハウを日々吸収しています。研修員と接する中で、日々痛感することは、自国の観光をよりよくするために、何でも吸収しようという志の高さです。

テインさんは元々、教員をしておりましたが、より自分を高めるために内務省に転職をしたそうです。現状に満足をしているかと尋ねると、「まだ足りない。もっともっとだ」といいます。

ビンボさんは、「2015年からの



2014年10月19日 ミャンマー祭りにて
駐日ミャンマー連邦共和国特命全権大使
キン・マウン・ティン閣下と

ASEAN共同体の創設を控え、すべての物事が変わる。変化に的確に対応し、ルアンパバーン地域の魅力を高めていかねば」と意欲旺盛です。

研修員と日々触れ合うことを通じ、刺激を受けているからか、本市の職員の顔つきも精悍さが増しているように感じています。

むすびに

本事業の実施を通じて、日々感じ入ることが一つあります。国際交流は、大きな文脈の中では国の責務が大きいものです。しかし、私たち地方自治体がこのように草の根的な活動を行い、等身大の交流を行うということは非常に意義深いものであるということです。互いの国について、深い理解・信頼に基づいた紐帯は強固なものとなり、将来的には日本への信頼を高めるプラスの効果を創ります。

言葉も文化も生まれた場所も異なる方と、数か月間同じ空間で、同じ時間を共有するという事は、お互いを理解する上で、これ以上ない環境です。

この事業により生まれた、大きな大きな種が、これからさまざまな花を開かせていくことが本市にとっての大きな楽しみです。